

# 国経研だより

神奈川大学 国際経営研究所  
〒259-1293 平塚市土屋 2946  
神奈川大学湘南ひらつかキャンパス  
Tel 0463-59-4111 (内線 2200)

## 制度と国際経営

丹野 勲

私は、制度という視点から企業経営、国際経営を解明するという研究を行なっている。国際経営において、国際経営環境・制度の視点での研究が重要である。すなわち、企業のグローバル化は、異質な環境・制度下での企業競争という状況であるため、国内戦略以上に、経営環境・制度への認識が重要である。

制度とは、社会における規則、ルールである。さらに、制度は人々によって考案された制約であり、相互作用を形づくり、また、インセンティブ構造でもある。具体的には以下の制度が重要であろう。第1は、フォーマルな制度・ルールである。経済制度、政治制度、法制度、企業制度、労働・労資関係制度、契約などがある。第2はインフォーマルな制度・ルールである。社会制度、社会規範、慣習、道徳などがある。

制度と国際経営を考える場合、グローバルレベル、リージョナルレベル、国・地方のレベルの3つのレベルを分析することが重要であると考えている。第1のグローバルレベルの制度としては、①国際機関、例えば国連、WTO、IMF、国連、世界銀行、ADB（アジア開発銀行）等、②国際組織、例えば環境基準(ISO)、グローバル標準・規格標準、国際会計基準、条約等がある。第2のリージョナルレベルの制度としては、地域組織、地域統合、地域連携、例えばASEAN、AFTA、GMS、FTA、EU 等がある。第3の国・地方のレベルの制度としては、①経済制度、②政治制度、③法制度、④企業制度、⑤労働・労資関係制度、⑥社会制度等がある。さらに、制度と国際経営を考える場合、歴史的な視点から制度を分析する、歴史制度分析も視点も重要であろう。

このような制度と国際経営というテーマで研究を

行なっているが、現在、2つの方向からアプローチしている。

第1は、制度と国際経営に関するアジア地域の研究である。カンボジア、ラオス、ミャンマー、タイ、ベトナム (CLMVT)、中国などを中心として研究している。地域統合としてAFTA（アセアン自由貿易地域）、地域協力としてのGMS（大メコン圏開発）、CLMVTの企業経営環境、および制度としてのアジア地域の会社法とコーポレートガバナンス、労働関連法と人的資源管理、外資法と外資政策について研究している。特に関心を持っている地域は、CLMVT諸国である。CLMVTは新たなフロンティア地域として注目されつつあるが、一般にはCLMVTという言葉はまだ馴染みが薄いであろう。しかし、アジア地域研究の専門家の間では、CLMVTという言葉が定着してきている。メコン川流域地域であるカンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム、タイというCLMVTは、タイを除くと戦争など爪痕が残り経済発展が遅れていたが、近年その将来が注目されるようになってきている。

第2は、歴史的な視点から制度を分析する歴史制度分析の研究である。現在、私は、日本の経営について江戸時代にさかのぼって企業制度や労働制度の歴史を分析する研究に没頭している。日本的経営の源泉は、江戸時代にあるという考えから、江戸時代の法制度、株仲間、商人、奉公制度、職人、日本酒・醤油・鉱山等の企業、について関心を持ち研究している。さらに、明治時代以降の制度について、歴史制度分析の視点から研究している。日本で最初の労働立法である工場法、明治時代の労働者の労務管理、紡績業や鉱山の労働、財閥形成史に関心を持ち研究を進めている。

(所員/たんの・いさお)

## 国際経営研究所の新規業務計画進捗状況

### ジュニア・ボード構想—わたしたちの提案

湘南地区の小・中・高校生を中心にした“わたしたちの提案”の募集を8月末に行いました。小学校は120、中学校は75、高等学校は46、合計241校に発送し、172件の提案文の応募がありました。募集開始後、朝日新聞社の協力掲載により一部湘南を超えた地域からの応募もありました。

### 応募母集団状況

所属学校（小・中・高）別地域別分布は以下のようになっております。

地域 (あいうえお順)	小学校	中学校	高等学校	合計
伊勢原	14(1)			14(1)
常総			1(1)	1(1)
茅ヶ崎	31(1)	7(1)		38(2)
沼津		1(1)		1(1)
秦野	81(2)			81(2)
平塚	1(1)			1(1)
藤沢	25(2)		11(1)	36(3)
合計	152(7)	8(2)	12(2)	172(11)

数値は件数 ( )内は校数

学校別分布では、小学校が7、中学校が2、高等学校が2校となっています。また応募者の属性別では、小学校が172件中152件、比率にして88パーセントと、9割近くを占めていました。

### 個人、グループ別分布状況

今回の募集では、テーマの広域性や相互関連性、さらには情報共有性などにかんがみて、単独あるいはグループでもよい、という条件を設けました。その分布は次のようになりました。

	小学校	中学校	高等学校	合計
単独	121	4	12	137
グループ	31	4	0	35
合計	152	8	2	172

単独数値は人数、グループ数値は件数

ゲームおたくやパソコンおたく、さらには携帯おたくが一般的に広まっているという風潮のあるなか、今回の応募状況に関しては、その傾向はあまり顕著に出ていないようです。協働行動やツイッターエイコミュニケーションが作業段階で行われたということも考えられます。さらにいえば、“わた

したちの街の経営”を支える主体が複数で議論し提案の流れを一定の方向にまとめる作業が途中段階で行われたということになるのかもしれませんが。直接本人たちから聞いてみたい点の1つです。

### 提案ジャンル別分布

今回の企画で私たちが最も関心をもったのが、どのようなテーマを問題点として把握して、どのような提案を応募者がしているかでした。ここではその主題のジャンル別、学校別に分布をみておきましょう。

キーワード	小学校	中学校	高等学校	合計
街づくり	50	6	9	65
生活	39		1	40
道路、信号を含む移動手段				
	21		1	22
店舗、買い物	18			18
公園、スポーツセンターなどの公共施設				
	14	1		15
障害者保護	8			8
学校	8	1		9
会社	5			5
犯罪	2		1	3
自然	1	1		2
趣味	1			1
娯楽	1			1
情報処理機器	1			1
環境			1	1
合計	169	9	13	191

小・中・高を含め、圧倒的に高い比率を占めているのが、街づくりや生活面での提案でした。地域経営を論ずるときの有用なヒントが数多く寄せられました。

### 「わたしたちの提案」応募作文の審査基準と今後の予定

厳正かつ公正な審査をするために、あらかじめ作文評価票を作りました。審査基準として①発想の豊かさ、②論理性、③表記・その他の3つを設けました。また小・中・高別の基準の重視度に変化をもたせました。1本の作文について国際経営研究所の所員がそれぞれ2名審査にあたり、さらに委員が最終審査を行いました。全体の公表は11月20日(土)の「わたしたちの提案」発表会にて行います。詳細は「国経研だより」27号の最終4面をご参照ください。

## 大学生のOJTと学びの習慣

浅海典子

## OJTとOff-JT

人材育成の方法にはOJT (on-the-job training) とOff-JT (off-the-job training) があるが、OJT がもっとも重要なのは言うまでもない。職場で、上司や先輩が指導者となり、仕事のやり方を教えて練習させる。出来栄をチェックして仕事を任せ、一人前に育てる。さらに、放っておけば失敗するかもしれない難しい課題に挑戦させ、上司が見守って支援する。

Off-JTでは仕事経験を振り返って整理し、新しい知識を習得する。職場を離れリフレッシュして、仕事への意欲を高める効果もある。

私が訪ねている機械部品メーカーでは、OJTと研究会を組み合わせた人材育成に熱心に取り組んでいる。研究会には若手社員が集まり、不良発生率低減や納期短縮、新規プロジェクトの立ち上げなどの各自の課題を設定する。互いにアドバイスをした後は、職場に戻って課題解決の方法を上司と相談し、同僚や関係部署を巻き込んで試行錯誤の毎日が続く。中間報告会では他部署の上司からも厳しい指摘を受け、成果報告会で工場長に評価されると、次なる課題達成への意欲が湧く。このようにして、自ら課題を設定して解決できる力を養う。

では、「大学生のOJT」はどうだろうか。入学当初は基礎演習で手取り足取りの指導を受け、最後は卒業論文を仕上げるまで、大学生のOJTも段階的に進んでいく。また、科目の勉強だけでなく、ゼミ活動、各種の実習なども大学生のOJTである。職業人の人材育成の目標はあくまで職業能力の開発であるが、大学生の目標は職業人予備軍になることだけではない。社会で生き抜く力を養い、一人前の大人になることが彼らの目標であり、アルバイトや恋愛、就職活動もOJTといえるかもしれない。すると私の役割は、職場の上司と同じように難しい課題に挑戦させ、見守って支援することであろう。

## 学びの習慣

職場では、OJTの成果は本人の仕事ぶりに現れる。では大学生のOJTの成果はどうだろうか。社会で生き抜く力を養い、一人前の大人になることが目標なら、達成度の確認は難しい。まして、大学教育がどれほど寄与したかなどわかるはずがない。

と、そこまで考えて、考えたことを悔やんでいたところ、大学教育の効果に関する論文をみつけた。矢野(2009)は5大学の工学部の卒業生調査によって、大学教育の貨幣的な効果を実証している<sup>i</sup>。それによれば、大学時代に獲得した知識や能力が、企業で働く現在の知識・能力を向上させ、現在の知識・能力が、所得を増加させる<sup>ii</sup>。この場合の「知識・能力」とは、科目の知識だけでなく、語学や社会経済の知識、対人関係能力、プレゼンテーション能力、読書経験などを含んでいる。ただし学生時代に知識・能力を獲得しても、現在の知識・能力が低ければ所得は増加しない。矢野は、大学時代の学習や読書の蓄積と継続が現在の学習や読書を支え、その成果が所得の上昇になって現れるとして、大学教育の間接的効果を「学び習慣」仮説と呼んでいる。

そうであれば、「大学生のOJT」に熱心に取り組む、難しい課題に挑戦して解決する態度を身につけることが、職業人になってからのOJTにも良い影響を及ぼすかもしれない。大学時代から自分を伸ばそうとする習慣を身につけることが、職業能力の開発を支え、さらに豊かな職業人生につながると期待したい。

さて、卒業論文は進んでいるだろうか…

(所員/あさみ のりこ)

## 研究余滴

<sup>i</sup> 矢野真和(2009)「教育と労働と社会—教育効果の視点から」『日本労働研究雑誌』No.588

<sup>ii</sup> 調査対象者は民間企業で働く男性である。

## 国際経営研究所の主な活動状況

## 第6回 Salon de WINE シンポジウム開催

当日のおおまかなプログラムは、以下のようになっています。

日 時：2010年11月20日(土)  
13:00～17:00(開場：12:30)  
会 場：平塚商工会議所 3F 大ホール  
参加費：無料  
第一部 小・中・高校生による「わたしたちの提案」  
最優秀者、優秀者による発表  
表彰、講評を含む  
第二部 統一論題「地域に根ざした、しなやかな経営  
を探る—多様な個性をつなぐ—」シンポジウム  
特別講演者：平塚信用金庫 理事長 石崎 明 氏  
基調講演者：神奈川大学 大学院経営学研究科委員  
長、経営学部教授 後藤 伸 氏  
パネルディスカッション  
全体総括

## 松岡 紀雄教授 最終講義 &lt;公開&gt;

今年度で定年退職される経営学部教授で国際経営研究所所員でもある松岡 紀雄氏が、最終講義を下記の要領で行います。経営学部および国際経営研究所が後援しています。

日 時 2011年2月5日(土) 午後2時～4時  
(受付午後1時20分より)  
会 場 神奈川大学横浜キャンパス 16号館2階  
セレストホール  
入 場 無料

## 所員の神奈川大学共同奨励研究プロジェクト採択

## ◆ 丹野勲プロジェクト

専任所員3名の他に非常勤講師、客員研究員2名からなる、混成チームです。

プロジェクト名：アジアにおける文化・社会・制度に基づいた独自のコーポレート・ガバナンス体制の解明

共同研究者：阿部克彦、小島大徳、丹野勲、ビシユワ・ラズ・カンドル、山内清史

キーワード：コーポレート・ガバナンス、商慣行・会社法制度、トップマネジメント、企業経営機構、ファミリー企業

特記事項：平成22年度開始の3年プロジェクトです。

## ◆ 後藤伸プロジェクト

専任所員6名の他に総合理学研究所所員3名、心理相談センター所員1名、合計10名からなるコンプレックスチームです。

プロジェクト名：地域連携研究拠点としての“湘南学”構想(社会—生態学の視点から)

共同研究者：浅海典子、海老澤栄一、小笠原強、後藤伸、杉谷嘉則、杉山崇、照屋行雄、行川一郎、西本右子、林悦子

キーワード：歴史、文化、経営、資源、技術、環境、自然、景観

特記事項：平成22年の単年度プロジェクトです。

## 所員の対外研究活動報告

所 員：海老澤 栄一

学会名：日本経営診断学会

研究テーマ：経営診断基礎理論構築プロジェクト

組織編成：各支部長からの推薦者に自己推薦者を若干加え、プロジェクトチームを10名前後で編成する。

研究期間：2010年度内

研究成果：学会の基礎理論として学会および会員間で共有する。また来年度以降に編集出版される『日本経営診断学会ハンドブック(仮称)』に掲載予定。

## 研究所からのお知らせ

## ◆ 鍵の変更

従来のシリンダーキー方式からボタン形式のキーレックス方式に変更になりました。

## ◆ ホームページ完成

研究所の対外的な広報活動の一環として、懸案であったホームページができあがりました。新しい事業や事業内容の変更などは、そのつどアップデートされています。ぜひご覧ください。最近のできごとでは、「わたしたちの提案」を朝日新聞社が応募要領を記事にしてくれました。HP効果がでています。

## ★編集後記★

平塚からSHCへ来るバスルートに、「山入口」がある。出口はなくてもよいのだろうか。山出入口のほうがよいのでは、などと下らないことをバスのアナウンスのたびに思いつく。循環の動きをみても、左からの入口は、過程をへて出口へ向かう。その出口はつぎの過程の入口になる。つまり途中からは出入口の併用になる。うーん、何だかわけが分からなくなってきた。ひと寝入りしよう(E)。